



高校野球のマナーとルールを学ぼう (第75回)



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えします。

マナー編 高校野球における重点指導事項

高校野球では重点指導事項が毎年定められ、選手、指導者、審判員に通告されていると聞いていますが、2017年度の指導事項はどういったものですか?

2017年度の重点指導事項は、昨年度に続き「礼に始まり礼に終わる」という標題で、「礼」のあり方(第1回、第52回、第63回を参照)が定められています。

野球規則では、試合開始前と終了後に両チームが本塁を挟んで整列し、礼(挨拶)を交わすことまでは定められていません。1915年の第1回全国中等学校優勝野球大会で、当時の平岡副審判長が訓話の中で、「**徳義を重んじる勇者の試合には、必ず付随すべき礼儀として制定した**」と記録に残っており、この精神が脈々と継承され、現在に至っています。

いよいよ、野球シーズンが本格化します。この精神を体現する「礼」のあり方をよく考え、選手、指導者、審判員は試合に臨んで欲しいと思います。

ルール編 「高校野球特別規則24の改正」

走者一・三塁、投手はセットポジションから投球する際、完全に静止することなく打者に投球したので、三塁塁審は「ボーク」を宣告しましたが、投球が打者の頭部に当たりました。球審は「タイム」を宣告した後、各走者に1つの進塁を指示し、打者を一旦ベンチに下げ、試合を中断しました。高校野球では、頭部への死球の際には、臨時代走者を適用することが原則ではないのですか?

高校野球では、選手の安全、試合に出場可能な登録者数の制限、同日中に複数試合を運営することなどから、頭部付近への死球が発生した場合には、原則として臨時代走者を適用し、試合を進行することとなっています。しかしながら、2017年の改正で、**ボークの投球であった場合にはボークが適用され、打者は打ち直すよう改められました**。このため、球審は打者をベンチに下げ、打ち直しが可能な状況にまで回復するための時間をとったのです。(もちろん、監督の判断で代打者に代えることは可能です)

2016年までは、上記の状況が試合を決するような状況下(つまり9回裏や延長回裏)で発生した場合のみ「ボーク」を適用することとなり、先行・後攻チームでルールに違いがあるという野球本来の同条件でプレイするという取り決めから逸脱した取り扱いとなっているという課題がありました。

なお、走者一塁、走者一・二塁、走者満塁の際には、死球が適用され、ボークはなかったものとして取り扱われる(野球規則6.02a ペナルティ『ただし、ボークにもかかわらず、打者が安打、失策、四球、死球、その他で一塁に達し、かつ他のすべての走者が少なくとも1個の塁を進んだときにはこのペナルティの前段を適用しないで、プレイはボークと関係なく続けられる』)ことには留意しておく必要があります。

